

NEWS

Kuwana City Medical Center

vol.59 | 災害



New hospital of East, West and South medical centers

2018年4月桑名東・西・南医療センターが1つになり新病院が誕生しました。

Take Free

特集 災害対策



「災害」と聞いたとき、皆さんはどのような災害をイメージされますか？

近年、日本で大きな被害をもたらした、大地震や津波、台風などを思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか。災害には様々な種類があり、自然災害と人為災害に大きく分けることができます。



- 自然災害 地象災害(地震・津波・火山活動など)
気象災害(台風による洪水、大雪、雷など)
- 人為災害 都市公害(大気汚染・水質汚濁など)
交通災害(車・飛行機・電車・船舶などを原因とした災害)

この他にも多種多様な災害が存在し、日々私たちの生活に影響を及ぼす可能性があります。今回の特集は「災害対策」として、当院の災害に対する備えについてご紹介いたします。

当センターは2020年3月に三重県から災害拠点病院に認定されました。災害拠点病院は1995年に発生した阪神・淡路大震災を教訓に「災害発生時に初期救急医療体制の充実」を図るために指定された施設です。指定されるには下記の「災害拠点病院の条件」を満たす必要があります。

三重県内には当院を含め17の災害拠点病院が設置されています。当院の認定により、桑員地域の災害拠点病院は、いなべ総合病院との2施設体制となりました。



災害拠点病院の条件

- ①24時間いつでも災害に対する緊急対応ができ、被災地域内の傷病者の受け入れ・搬出が可能な体制を持つ。
 - ②実際に重症傷病者の受け入れ・搬送を行うことができる。
 - ③消防機関(緊急消防援助隊)と連携した医療救護班の派遣体制がある。
 - ④医療設備や医療体制、情報収集システムと緊急車両、自己完結型の医療チーム(DMAT)を保有している。
- 等

災害対策委員会

当院では災害対策委員会(医師、看護師、コメディカル、事務など、様々な職種で構成)が中心となり、職員それぞれの得意分野を活かし、病院全体がスクラムを組んで災害に備えた準備を行っています

当院は災害拠点病院になりましたが、ゴールではなくスタートラインに立った状態です。南海トラフ地震は約100年毎に発生しており、前回の発生したのは74年前でした。いつ発生してもおかしくない状況です。また、台風をはじめとする風水害への備えも必要な地域となっています。

いつ発生しても迅速に対応ができるよう、マニュアル策定はもとより訓練などを通して準備を進めています。



災害対策委員会の様子

地震対策

この地域では特に「南海トラフ地震」の発生が懸念されています。桑名地域では震度6ほどの地震が発生し、病院周囲の液状化や津波などで浸水することが想定されています。これにより、電気や上下水道などのライフラインの途絶、交通網の遮断、流通の停止などが起こる可能性があります。

当院は制震構造で震度6強までの地震に耐えうる構造になっており、建物自体への影響は少ないと考えています。また、ライフラインの供給が遮断された際に使用する装置(自家発電装置等)や備蓄物資を準備しています。

毎年災害に備えて、災害訓練を実施しています。昨年は、当院の被害状況を他の医療機関と共有するための「広域災害救急医療情報システム(EMIS)」を用いて実践的な訓練を行っています。このシステムでは、被災情報を入力し、外部からどの程度の援助が必要か、病院がどの程度診療を行えるかなどを外部機関とリアルタイムに情報を共有することができます。



自家発電装置

重油を使用した自家発電装置を屋上に設置しており、約3日間院内の電力を確保することができます。

複数系統による受電

停電などを防ぐために、複数系統による受電を行っています。何らかのトラブルによる1系統が遮断されても、継続して受電することができます。



備蓄品

患者さんや職員用の飲料水・食料を浸水の心配が無い場所に3日分確保しています。また、医療資材についても十分確保しており、一定期間医療行為を継続して実施することができます。



衛星電話

災害によって固定電話や携帯電話が使用できない場合に、衛星回線を用いて通信環境を確保することができます。また、パソコンと繋ぐことでインターネットへ接続し最新の情報を発信することができます。

トリアージ

災害時には通常と異なる運用が必要となります。ここでは「トリアージ」についてご紹介します。


トリアージとは通常の外来受診と違い、医療資源に対して医療を必要とする患者さんが圧倒的に多いときに、真に逼迫した治療を選別する作業です。状態の安定した患者さんを「緑」、緊急処置の必要な患者さんを「赤」、処置は必要だが時間的に余裕のある患者さんを「黄」に分類します。

少ない資源で最大の効果をあげるために行われます。

よくある質問

- Q** 津波の影響により病院周辺が水没した場合、患者搬送はどうなるの？

A 病院周辺が水没することを想定し、桑名市消防本部と水上輸送に関する協定を結んでおります。



搬送船イメージ
- Q** 停電になった場合、医療機器は使用できるの？

A ナースコールをはじめとする医療機器は非常用電源に繋がっており、停電しても安心して使用することができます。左ページで紹介したように自家発電装置や複数系統での受電といった様々な対策を施しています。
- Q** 断水した場合、診療に影響はないの？

A 院内の受水槽には約3日分の水が蓄えられています。また、備蓄品として飲料水を別途確保しています。その他にも、災害時の診療に必要な水を確保する目的で桑名市とも協定を結んでいます。
- Q** 津波や風水害時にはどのくらい浸水する可能性があるの？

A 桑名市のハザードマップによると洪水発生時には0.5m~3.0m未満、津波発生時には1.0m~2.0m未満の浸水が発生する可能性があると考えられています。このため当院は建築時に診療施設を原則3階以上にするなどの対策を行っています。

今後に向けて

医療とは常に必要とされるものです。それは災害時でも変わりはありません。想定される被害を超えることがあるかもしれませんが、災害対策に完璧はないかもしれませんが、災害対策体制をできるだけ早く構築し市民の皆さん、職員が少しでも安心して暮らせるように、病院職員一丸となって努めていきます。

DMAT

DMAT (Disaster Medical Assistance Team) とは「防ぎ得る災害死」を減らすため、阪神・淡路大震災(1995年)の教訓を経て発足した医療チームです。テレビドラマにも取り上げられ、ご存じの方も多いかもしれません。災害に対する専門的トレーニングを受けたチームであり、福知山線脱線事故(2005年)や東日本大震災(2011年)などで活躍しました。

当院が災害拠点病院の指定を受けるにあたり、第1隊として私達5名が選ばれ養成研修に参加し、当院初のDMATが組織されました。私達5名は東京で行われた研修会に参加し、DMAT 隊員に必要な様々な知識や技能を習得しています。

桑員地区では、遠くない未来に発生するとされる南海トラフ地震により甚大な被害が予想される地域であり、当院DMATは他都道府県での災害時における被災地支援のみでなく、桑員地区罹災時の救護活動、他都道府県からのDMAT受け入れに関して、中心的な役割を担うことが求められています。災害はいつ起こるかわかりません。求められる役割を全うできるよう、出動態勢を整備すると共に、院内災害対策委員会においても積極的に活動をしています。

私達は、チーム内での「規律と信頼」が最も重要と考えています。今は5人という小さな組織ですが、桑員地区を災害から守るという目標に向けて、院内でも仲間を増やし、消防や近隣医療機関とも連携し、みなさんが安心して暮らせる災害医療体制を構築していきたいと考えています。桑名DMATの活躍にご期待下さい！

成田 潔

DMATリーダー

医師



普段は外科医として勤務していますが、外傷治療やその教育に携わってきました。災害医療において、外傷診療についての知識や経験は必要不可欠です。DMATとして、災害時には1人でも多くの命を救えるよう、これからも研鑽を積んでいきたいと思っています。

松本 恵美

看護師



東日本大震災の際は岩手県陸前高田市での医療支援活動に従事しました。災害医療・災害看護に関連した訓練や研修等で継続的に研鑽を積み、現在は三重県看護協会の災害看護委員として災害支援ナースの養成にも取り組んでいます。DMAT隊員として院内及び地域の災害時対応力の向上に貢献していきたいと考えています。

石原 美佳

看護師



東日本大震災時、災害支援ナースとして、宮城県石巻市の避難所の支援に行きました。現場はライフラインが全て寸断されている悲惨な状況でした。災害時での自分の看護と向き合い、災害看護について勉強しました。今後は、DMATとして超急性期の災害医療現場で、災害医療支援が出来るように頑張りたいと思います。

西川 嘉広

業務調整員



普段は救急・集中治療領域を専門とした救急認定薬剤師として集中治療室で勤務しています。災害医療は救急医療の一分野で、中でも業務調整員は被災地での情報管理や隊のライフライン構築など日常業務とかけ離れていますが、派遣時はDMAT隊員として被災者支援のために最善を尽くしたいと思います。

栗田 祥司

業務調整員



普段は総務課で勤務しています。当初、事務職員の自分が災害現場で出来ることがあるのか不安を抱えていました。しかし研修の中で、情報収集、通信・移動・活動環境の確保、機材・物品調達など、重要な役割であることを認識できました。災害医療に携わる一員として、日々精進に努めたいと思います。

地域医療圏ごとの 病院BCP策定の試み



三重県病院協会理事長
桑名市総合医療センター理事長
竹田 寛

昨年は台風19号や度重なる大雨などにより、全国各地に甚大な被害がもたらされました。また、熊本県をはじめとする九州地方や岐阜・長野で発生した令和2年7月豪雨でも多くの被害が発生しました。新型コロナウイルス感染拡大が重なったこともあり、従来とは異なる対応が必要となっています。こうした災害は桑名市でいつ発生してもおかしくありません。地域医療を守るために、十分な備えをする必要があります。

すべての病院は、いつ、どこで、どのような災害が起こっても、地域住民を守るために必要な医療や介護をどれくらい継続できるか、その計画を策定することが義務付けられています。これを事業継続計画(BCP)といいます。しかしその策定率は非常に低く、全国平均で約30%、三重県全体で53%です(昨年度末現在)。策定の済んだ病院の多くは災害拠点病院で、それ以外の病院ではあまり進んでいないのが実状です。

災害発生時に、地域医療を守るために役立つBCPとは？

災害が発生した場合、地域全体としての医療を継続するためには、事前に各医療機関がどのような役割分担をし、どのような協力体制を組むかを事前に決めておくことが大切です。しかし策定されているBCPの多くは、各病院が独自に作成しているため、他の医療機関との連携についてあまり考慮されておらず、災害発生時に十分な協力体制がとれるか疑問視されています。

そこでBCPを作成する際に、その病院の規模や専門性を考慮し、想定される災害の状況に応じて他の医療機関との協力体制や役割分担を明確にすれば、真に地域医療を継続できる災害対策が出来上がるものと期待されます。



三重県における8医療圏

三重県における8医療圏ごとのBCP策定への試み

三重県は地域ごとに8医療圏に分けられます。各医療圏ごとに、病院長や防災担当者などが集まり、三重大工学部川口淳准教授(災害工学)による講習会やワークショップ形式での指導のもと、皆で話し合いながら、それぞれの病院のBCPを策定しています。

様々な被害想定とその対応

BCP策定にあたり、地域ごとに様々な被害を想定します。例えば浸水3mの被害が発生したとします。右図で薄橙色の枠で囲んだ海沿いの病院では機能が停止します。そこで残った病院が、どのような役割分担をし、協力体制をとることで、少しでも地域医療を維持出来るかを検討します。こうして、どのような被害が生じて、残った病院の機能をフルに結集して、地域医療を守るための対策を練ります。



桑名・いなべ地区での進捗状況

桑名・いなべ地区では、県内のモデル地区として昨年7月よりBCP作成のための講習会やワークショップを開催し、既に4回終了しました。現在15病院中13病院においてBCPが策定され、策定率は87%と県内でも群を抜いて高くなっています。今年度中には、すべての病院のBCPを策定し、さらに診療所や介護施設、行政との協力についても検討していきたいと考えています。

	グレード			合計	BCP策定率
	3	2	1		
桑名・いなべ	3(2)	6(6)	6(5)	15(13)	87%
四日市	4(3)	6(1)	4(1)	14(5)	36%
鈴鹿・亀山	3(1)	3(1)	6(0)	12(2)	17%
津	2(2)	11(6)	9(5)	22(13)	59%
伊賀	2(2)	1(0)	3(1)	6(3)	50%
松坂	3(3)	2(1)	5(1)	10(5)	45%
伊勢志摩	3(3)	4(2)	2(0)	9(5)	63%
東紀州	2(2)	1(0)	2(1)	5(3)	60%
三重県全体	22(18)	34(17)	37(14)	93(49)	53%

県内8医療圏におけるグレード別病院数とBCP策定率
()内はBCP策定済病院数
2020年3月末現在



桑名・いなべ地区の講習会風景

今後の展開

現在、伊賀地区や東紀州地区でも策定作業が進行中で、今年度中には県内すべての医療圏に拡大していく予定です。このように医療圏ごとに病院が一体となってBCP策定を行っているのは全国的にみても三重県独自の取組です。これがうまくいけば、地域医療を守るための災害対策が、全県挙げて出来上がります。その日を夢見て頑張りますので、どうぞよろしくお願い致します。

With you 医療人

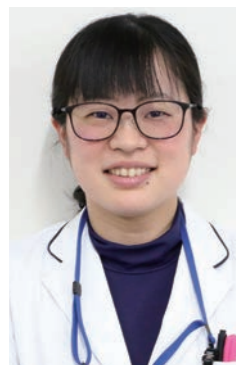


栄養管理室の業務は大きく「給食管理」「栄養管理」「栄養指導」の3つに分かれ、現在5名の管理栄養士が働いています。

当院の栄養管理室では「栄養管理の基礎は何か?」という原点に戻り、「患者さんが食べることを第一に、安心・安全で美味しい治療食の提供に努めています。

今回は当院で働く管理栄養士の仕事を紹介します。

給食管理



入院されている患者さんを対象に年2回嗜好調査を実施しており、その結果を元に献立の改善を行っています。例えば、お肉が硬いという意見に対しては、肉類が柔らかくなるように細かく切り込みを入れるなど、患者さんの意見を出来る限り献立や調理法に反映できるよう日々奮闘しています。

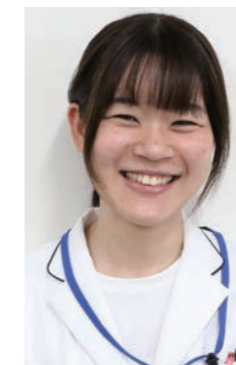
押田 有香 管理栄養士



献立を作る上で、病態に合った栄養価になっているのかをまず確認します。そして同じ食材や似た調理法が継続していないか、また旬の野菜が使用されているか、地産地消となっているか、などを確認しています。患者さんの「この食事は美味しい!」の言葉を聞くために日々頑張っています!

岡村 亜紀 管理栄養士

栄養管理



患者さんの栄養状況を把握する栄養管理計画書を作成しています。作成を通して食事が少ない患者さんがいれば、病室を訪問して摂取状況を聞き取ったり、内容・形態などを相談し、栄養が取れるよう個々に対応しています。摂取量がUPし、表情も明るくなっていく患者さんを見ると、とてもやりがいを感じます。

池田 衣里 管理栄養士



私は栄養指導を行う中で患者さんが「食事療法を実践したら数値が良くなった!」と笑顔で話してくださる時が一番嬉しいと感じます。食事は日々の楽しみの一つです。個人・集団ともに、無理なく実践できる食事療法を患者さんと一緒に考え、継続できる指導を行うようにしています。

石咲 朋子 管理栄養士

行事食



新病院
開院記念行事食
志摩観光ホテルと
相可高校との
コラボレーション



4月の行事食
花見弁当

日々の献立



桑名の名店
「串まん」大将直伝
串揚げ
(毎月提供)



11月~4月限定
尾鷲直送 刺身
(隔週提供)

栄養室副室長



医食同源という言葉があるように、食事は毎日の楽しみであり、治療の一環です。【目で見て美しく、味わって美味しい「新しい病院食」】の提供に努めながら、疾病の回復や栄養状態の改善に向けてがんばっています。また、四季折々の季節を重視した行事食の提供なども行っています。日常の食事にも力を入れていますので、ぜひご賞味ください。

長谷川 恭子 管理栄養士

【教室参加者募集】

栄養管理室では糖尿病、減塩、肝臓病、嚥下について教室を開催しています。キッチンスタジオを使用して、調理の実践を加えながら、自宅でも可能な食事療法を提案し、医師・看護師・コメディカルによる講義なども行っています。

詳細は栄養管理室までお問い合わせください。

TEL 0594-22-1211



心不全って知っていますか？

心不全と聞いてどのようなことをイメージをされますか？

「耳にしたことはあるけれど、あまりよく知らない」、
心臓の病気とはわかるけど。」という方が
多いのではないのでしょうか。

心不全とは、「心臓が悪いため、息切れやむくみが起こり、徐々に悪くなり、生命を縮める病気」です。心不全と診断された方が5年後に生存している確率は50%程度であり、大腸がんになった方と同程度です。日本での死亡原因を見ても、「心不全を含む心臓の病気」が「がん」に次いで死亡数2位と非常に多くなっています。思ったよりも大変な病気だなと感じられたのではないのでしょうか？

心不全の主な症状

そもそも心臓は全身に血液を送り出すポンプの役割をしています。心不全になると、このポンプ機能がうまく発揮出来ないことで肺に水が溜まったり、むくみが出てきます。原因としては様々な誘因があり、**高血圧・心筋梗塞**(心臓を養う血管が閉塞する病気)・**弁膜症**(心臓の中の血流を制御する弁に異常が起こる病気)・**心筋症**(心臓の筋肉に異常が起こる病気)・**不整脈**(脈が乱れる病気)などがあります。治療法はそれぞれ異なるため、原因をはっきりさせ、その原因となった病気を治療することが大切です。

早期発見・早期治療

心不全の典型的な症状として、息切れや手足のむくみ急激な体重の増加があります。さらに進行すると就寝時に咳や息苦しさに眠れなくなることがあります。心不全になったとしても早期発見、早期治療ができれば引き続き元気な生活を送ることができる方も多くおられます。上述した症状が気になった時には早めにかかりつけ医の先生へ相談いただくことが大切です。

心不全の予防

心不全にならないためには生活習慣の改善が効果的です。喫煙、塩分過多、運動不足、多量飲酒、肥満などは心臓に負担がかかるので避けましょう。今後、高齢者の増加に伴い、心不全患者さんが大幅に増加すると予想されています。しっかりと予防や治療を行い、健康な生活を維持しましょう。



循環器内科部長
羽場 一直 医師

いなべ市出身
2003年近畿大学医学部卒業
同年より近畿大学医学部
奈良病院勤務
2011年より桑名市民病院
(桑名西医療センター)勤務
2016年より
桑名東医療センター勤務
2018年より現職

治験

治験は新しい薬を世に出すために欠かすことのできない臨床試験です。当院は質の高い診療や臨床研究を行っている病院として、製薬会社から依頼を受け、治験を行っています。



治験ってなに？

製薬会社が新しく開発した「くすり」を販売するためには認可を受ける必要があります。そのために製薬会社と医療機関が協力し、患者さんの同意を得た上で効果や副作用についての確認を取ることを「治験」といいます。

治験対象薬には病気が治ることや進行を遅らせる可能性が高いものもあり、その効果を期待して参加される患者さんも多くみえます。患者さんは、本来なら投薬のできない認可前の薬を用いた最新の治療を受けることができます。

治験に関わっている人達の役割は？

治験が円滑に進むようチームで様々な支援をしています。治験事務局が中心となり各種委員会の開催などの管理業務を行っています。また、治験コーディネーターは治験に参加して下さっている患者さんへの説明や対応などを行っています。

治験審査委員会

月に1回程度、院内で開催し、参加している治験に関する安全性や実施を継続する上での各種検討などを、患者の立場にたちながら審議しています。



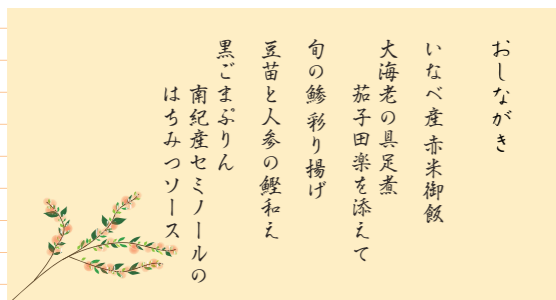
治験審査委員長
外科

町支 秀樹 医師

詳細は、当院のホームページをご覧ください。
診療科・部門紹介 → 部門一覧 → 治験事務局

開院2周年記念 お祝い御膳(5月15日)

桑名市総合医療センター開院2周年を記念して、入院患者さんにお祝い御膳を提供しました。



テレビ取材が行われました (5月26日)

当院看護師の米村尊さんが、東海テレビ「ニュースOne」の取材を受けました。

米村さんは「ヴィアティン三重」の現役バレーボール選手としても活躍されていることから、医療従事者とバレーボール選手との両面から、新型コロナウイルス感染症が流行している現状での経験や思いについて、インタビューに答えました。



認定医療通訳士資格を 取得しました

当院で働く、医療通訳・コーディネーターのカルデナスカルラさんと加藤シルレイさんが、「認定医療通訳士」を取得しました。外国の方が不安を感じることなく、受診できるよう、サポートをしています。

予約制

- カルデナスカルラ
… 月～金曜日(ポルトガル語・スペイン語)
- 加藤シルレイ
… 月・水・金曜日(ポルトガル語)



病児・病後児保育を開始しました

6月から院内スタッフを対象としたゆめっこ保育園において病児・病後児保育を始めました。保育中に急な発熱などで通常保育が困難となった場合に保護者が勤務調整をして迎えに来られるまでの間、お預かりします。また病気回復期のお子さんで、かかりつけ医から保育園の利用許可を貰っている場合にも、病児室で対応します。当院の小児科医や看護師長と協力しながら、お子さんが病気の時でも、子育てと仕事を両立しながら、安心して働いていただけるようお手伝いします。当面利用時間などの制約はありますが、今後改善に取り組んでいきます。



Gallery ギャラリー } 絵画等がたくさん飾られているのはご存知ですか？

院内には、寄贈いただいた絵画などがたくさん飾られています。Galleryでは、竹田理事長による作品紹介をシリーズで掲載しています。いろいろな作品がありますので、来院の際にはぜひ本物を探して、お楽しみください。



母と子 アンドレ・コタボ画(油彩画4号)
展示場所:外来棟4階エレベーターホール

アンドレ・コタボ(André COTTAVOZ)は、1922年フランスのサン＝マルスランに生まれ、リヨン美術学校を卒業、1945年頃よりフランス各地の展覧会に出品し、プリ・ナショナル賞などを受賞、同じリヨン美術学校卒業のフサロ、トラフィムスとともに新具象リヨン派を形成、形を単純化し中間色を厚塗りする独特の画法で世界的に人気を博しました。2012年、89歳で死去。油彩「母と子」は、庭のような場所で手を取り合って遊ぶ母と子を描いたのでしょうか。背景の青と緑、母と子の髪の毛の黄色、顔や手の肌色、母の洋服の白など、いずれも中間色の絵具が厚塗りされています。形も極端に単純化された形が複雑に交錯し、一見、抽象画のように見えます。しかし目が馴染むにつれ、奥行きのある背景に、母親に甘える子供の姿が微笑ましく浮かび上がります。

伊藤 簾(いとう れん)は、1898(明治31)年名古屋生まれ、1925年東京美術学校を卒業後3年間渡仏、帰国後独立美術協会の創立に加わり、1943年より国国会へ移り制作を続けました。東京芸術大学教授を経て、1966年には自ら設立のために尽力した愛知県立芸術大学美術学部長に就任しました。著書に『絵の話』(美術出版社)など。1971年、紺綬褒章受賞。1983年名古屋市にて逝去(享年84歳)。油彩画「洋梨」は、サムホールと呼ばれる小さなキャンバスに描かれた作品です。サムホールとは、親指の入る穴の開いたパレットのことで、それと同じ大きさという意味です。深緑と萌葱色の入り混じる重厚な背景に、洋梨が3個描かれています。形が不安定なため1個は倒れています。洋梨の黄色い肌に赤や萌葱が巧みに配色され、1個1個の個性が生き生きと描かれています。



洋梨 伊藤簾画(油彩画サムホール)
展示場所:入院棟7階食堂

ネスレ日本さん・美鹿山荘さんから寄贈を賜りました

当院と桑名市、ネスレ日本とで、市民の健康づくりを目的とした「卓球珈琲」プロジェクトを行っております。その繋がりから、5月26日、新型コロナウイルス感染症への対応に当たっている医療従事者への激励を込めて、チョコレートとコーヒーをいただきました。また、6月5日には、桑名市多度町にある、桑名名物たがね煎餅のお店「美鹿山荘」からも、全職員(約1,100人分)へあられをいただきました。心温まるお気遣いに感謝をしながら、引き続き、地域医療に貢献致します。ありがとうございました。





！ P4駐車場が8月20日オープン予定！

2019年10月より工事を進めておりました旧棟跡地に、P4駐車場がオープンします。
64台の駐車場と、駐輪場を備えております。



◆ 駐車料金 (P1・2・3・4)

外来

5時間まで **100円**

※以降30分毎200円

面会 一般

30分毎 **200円**



新入職員募集！ 2021年度 4月採用



看護師・薬剤師を含めた
メディカルスタッフを
募集しています。

詳細についてはWEBをご覧ください。

